

平成 31 年 2 月 13 日

各 位

株式会社リボミック
(コード番号 : 4591 東証マザーズ)

日本化学会で RBM-007 の中分子医薬としての特徴と 米国治験について招待講演

当社は加齢黄斑変性症に対する新薬候補として、RBM-007（抗 FGF2 アプタマー）の Phase 1/2a 臨床試験（ニックネーム SUSHI Study）を、米国において昨年 10 月から開始し、中用量群（コホート 2）の投与を今月完了し、治験は順調に進んでおります。中分子医薬^註としての RBM-007 の特徴と臨床試験の途中成績、今後の見通し等を、来月 16-19 日に開催される日本化学会第 99 春季年会において、招待講演いたします。

発表日時 : 平成 31 年 3 月 18 日

発表者 : 代表取締役社長 中村義一

題 名 : Aptamer as a therapeutic middle molecule and its development to clinical trials
(中分子としてのアプタマー創薬と臨床試験)

【中分子医薬^註】

医薬品は、そのサイズ（分子量）によって、従来の化学合成品のような低分子、抗体のような高分子に分類され、その中間の核酸やペプチドは中分子として分類されます。中分子は抗体と低分子の特徴を併せ持ち、これまでの医薬品では狙えなかった標的にもアプローチできるとされ、医薬品の新たなカテゴリーとして期待を集めています。その最大の魅力は、中分子がタンパク質間相互作用 (protein-protein interaction、略して PPI) を阻害することが可能で、アプタマーを利用すれば、これまで抗体では不可能だった細胞内の疾患原因となる PPI を遮断する新しい医薬品の創製につながるものと期待されます。

アプタマーの詳細については、当社ウェブサイトもあわせてご参照ください。

(URL: <https://www.ribomic.com/technology.php>)

以上

【本件に関するお問い合わせ先 : 経営企画部 03-3440-3745】